

戦姫絶唱シンフォギア～二度異世界転生をした青年～

紅氷河

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

倉田或人は二度も異世界に転生してきた。▼一度目は少女達がバウンドで楽しむ世界で少女達を支える学生として。▼二度目はヒューマギアと呼ばれるAIが存在する世界で令和の仮面ライダーとしてAI達が人間を笑顔に出来ることを証明する為に戦い。▼そして、三度目は何の為に生きるのか？

▼それは、誰にも分からない。

EP:00
転生

目次

EP:00 転生

或人「ここはいつたい?」

辺りを見回すとそこは真っ白な空間らしき場所でも何もない空間が広がっていた。

???「初めまして、倉田或人さん」

突然、背後から女性の声が聞こえるので振り替えるとそこには黒いロングヘアアの女性が真剣な表情で立っていたので俺は

或人「貴女は一体?」

黒いロングヘアアの女性に質問すると、

イツシユタル「私はイツシユタルっていいいます」

と答えるので俺は

或人「イツシユタルってあの!?メソポタミア神話に出てくる女神のイツシユタル!」

驚愕しているとイツシユタルさんは

イツシユタル「何故、或人さんが此所に居るのか説明させて」その必要はないよーツツ!」

或人「俺さあ、思い出したんだ」

俺が死んだ理由を説明しようとしていたので、それを断って俺はあの時、起こった事を思い出す。

ー飛電或人視線ー

ゼロワンシヤイニングアサルトホッパー「サウザー、お前を此所で止める!!ヒューマギアや人間の笑顔の為にも!!」

ゼロワンシャイニングアサルトホッパー「だから、俺に力を貸してくれモルフオニカの皆!!」

俺は叫びながら立ち上がり一つの青い蝶と音符が描かれたプログライズキーを起動すると青い蝶達が俺の周りに舞い始めると同時に D a l i y g h t の曲が流れると同時に俺の周りにモルフオニカのメンバーのましろ、つくし、七深、透子、瑠璃の五人が並び立つ。

『M o r f o n l c a !』

『オーソライズ!』

そして六人が一斉に

ましろ、つくし、七深、透子、瑠璃、ゼロワンシャイニングアサルトホッパー『『『『『変身』』』』』

と眩くと、俺にモルフオニカの五人が重なると同時に青い蝶達が空に飛び立つと

『プログライズ!』

なんどでも!可憐に飛び上がりライズ!

ブルーバタフライモルフオニカ!

(青い蝶々達はどんな困難にも負けず何度でも立ち上がり演奏する!)

B l u e b u t t e r f l i e s I s W i t h o u t a
n y d i f f i c u l t i e s S t a n d u p m a n y
t i m e s p l a y !

ゼロワンの腕部と足部は蒼くなり、胴体部の真ん中には青い蝶のマークが現れその周りを囲むように音符マークが現れ、背中には青いエネルギーが蝶の羽の様に展開される。

ゼロワンブルーバタフライモルフオニカ「サウザーお前を止めれるのは俺達だ!!」

ゼロワンドライバーにプログライズキーを押し込み空に羽ばたくと足に蝶達が集まるほどそのままライダーキックをサウザー向かって解き放つ!!

『バタフライストームインパクト』

ス ト ー ム イ ャ ン ク ト

と同時に俺は意識を失った。

ー或人視線ー

そして、現在に至る。

或人「俺はこれからどうなるんだ？イツシユタルさん」

俺はイツシユタルさんにこれからどうなるか聞くと

イツシユタル「貴方を今から戦姫絶唱シンフォギアの世界に転生させます」

イツシユタルさんが言い放つと俺の前にドアが現れるので俺はその中に潜って行くと意識が落ちる。

ーイツシユタル視線ー

イツシユタル「はあ、最後は催眠の様なもので行ってもらいましたが後々他の神になって言われるかしら？」

まあ、それはいいとして後は

イツシユタル「次は貴女の番よ？ーーーさん」

と言うと彼女は

??? 「は、はい!!」

と怯えながらもこちらにやって来る。